

■「効果の見える治水事業」

香川県 石ヶ鼻川(高松市)の砂防事業

香川県高松土木事務所長 ほそたに よしてる 細谷 芳照



【被災の状況】

平成16年10月20日、台風23号の接近に伴う激しい降雨(連続雨量309mm・最大時間雨量48mm)の影響により、高松土木事務所管内では土石流やがけ崩れなど39箇所です砂災害が発生しました。

そのうち県中央部に位置する高松市国分寺町(旧綾歌郡国分寺町:旧坂出土木事務所管轄)の二級河川本津川支流石ヶ鼻川では、午後1時から2時頃にかけて土石流が連続して発生し、人家半壊1戸や床下浸水、耕地への土砂流出などの被害をもたらしました。

【事業概要】

ダム地点下流には多数の人家や耕地のほか、災害時の第1次緊急輸送路である国道32号、地域の生活道路となっている県道および市道などがあることから、次期降雨により発生する恐れのある土石流による被害を防止するため、平成17年度から石ヶ鼻川通常砂防事業に着手し、2年間で砂防えん堤1基を整備しました。

また、荒廃した山地の復旧については、県東部林業事務所において予防治山事業による山腹緑化も実施されるなど、当事業と併せて土砂災害に対する地域の安全性向上が図られました。

【おわりに】

管内にはこのような土石流危険渓流が242渓流あり、継続的に対策施設の整備を進めているところですが、全ての渓流を整備するには膨大な時間と費用を必要とします。このため優先度の設定による効率的な施設整備を図るとともに、土砂災害警戒区域等の指定促進による警戒避難体制等の充実や、警戒避難情報の提供などのソフト対策を併行して実施することにより、総合的な土砂災害対策の推進に努めたいと考えています。



- 整備施設
砂防えん堤工:1基
堤高9.0m、堤長82.5m、立積2,687m³
渓流保全工:L=22.0m
- 事業期間
H17年度~H18年度
- 効果量
貯砂量2,430m³、抑止量1,430m³
- 保全対象
人家41戸、国道210m、県道200m
市道680m、集会場2棟



土石流発生状況



砂防えん堤完成状況

「安心で安全なまちづくりを目指して」

高松市長 おおにし ひでと 大西 秀人



近年、地球温暖化に伴う気象変動の影響等により、全国各地で、局地的な集中豪雨や台風による大雨が増加傾向にあります。今年も7月に発生した中国・九州北部豪雨や8月の台風9号、さらには、10月の台風18号により、多くの尊い人命や財産が失われており、今後、豪雨や土砂災害の更なる多発、激甚化が危惧されます。

こうしたことから、本市といたしましても、沿岸部から山間部に至るまで、地域特性に応じた防災対策を進めており、沿岸部においては、平成16年の8月30日から31日にかけて大きな浸水被害(浸水面積:62.5ha、浸水量:海水約78万トン、浸水時間:約23時間)をもたらした台風16号の高潮を想定した護岸の嵩上工事を、香川県と協力して行っております。

また、昭和初期から合流式により下水道が整備されている中心市街地では、その排水能力不足により、これまで台風のたびに浸水被害が発生しております。特に、平成16年の台風16号では甚大な浸水被害が発生したことから、平成17年度に中心市街地浸水対策計画を策定し、新たなバイパス幹線管渠の埋設とポンプの増設による、浸水被害の軽減・解消を図っているところであり、現在、延長2.3km、内径3.5mの中部バイパス1号幹線の埋設とポンプの一部増設を完了し、引き続き、同2号幹線の整備等を進めております。

一方、山間部における土砂災害防止対策としては、平成18年度から香川県と共同で土砂災害の警戒区域(イエローゾーン)および特別警戒区域(レッドゾーン)の調査および区域設定を行っており、市民等への危険箇所の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地規制、既存住宅の移転促進といったソフト対策の充実にも努めております。

高松市民は、平成16年の台風による浸水災害により、心身ともに大きな痛手を被りましたが、これにより住民の防災意識は高まり、自助の面で大きく成長しているものと考えております。災害防止対策はもちろん重要ですが、「災害は起きるもの」との前提に立ち、過去の教訓を生かし、今後とも地域住民と一体となった防災対策に取り組むことにより、安心で安全なまちづくりを推進していきたいと考えております。



台風による市街地浸水状況



中部バイパス第1幹線工事